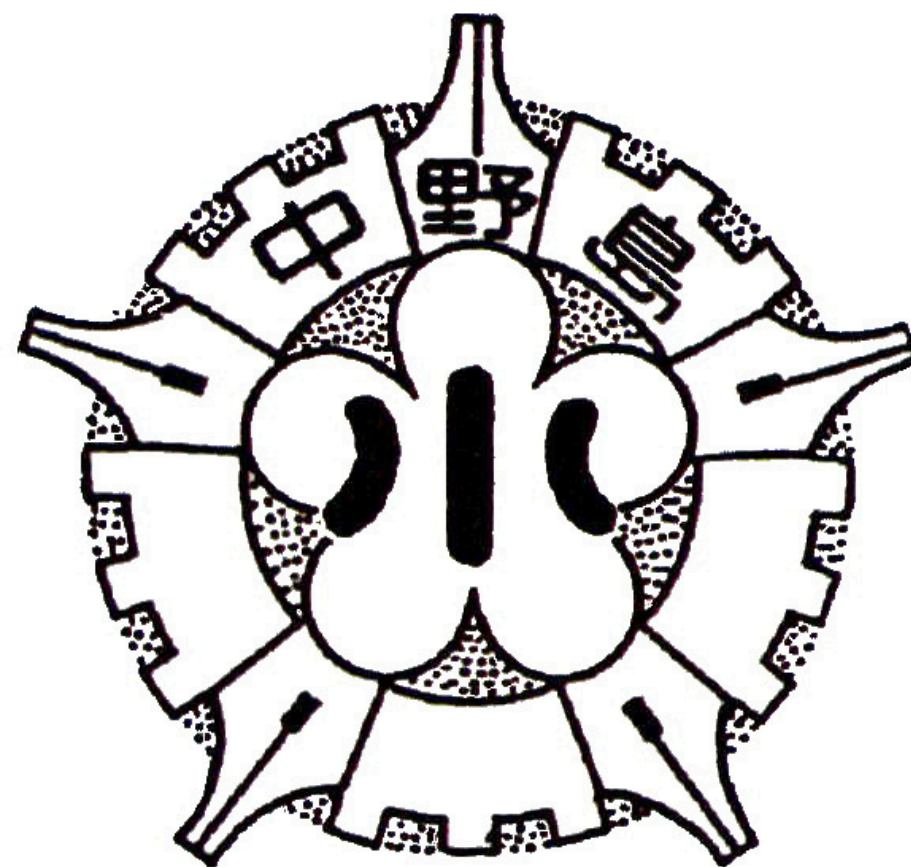


# 令和8年度 中野島小学校

「子供たちの資質・能力を育む  
新しい学びのカタチ」

教育課程柔軟化サキドリ研究校



# 目次

1. 文部科学省より①
2. 文部科学省より② ※文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校事業  
公募要領資料より
3. 8時25分から朝の会スタート！
4. 中野島小独自の取組
5. モジュール学習の充実
6. 新設！中小タイム



# 1. 文部科学省より①

7 文科初第 2062 号

## サキドリ研究校指定書

川崎市立中野島小学校を

教育研究開発実施要項

(教育課程柔軟化サキドリ研究校事業)

(令和7年8月28日文部科学大臣裁定)

に基づき令和8～9年度

サキドリ研究校に指定します。

令和8年2月13日

文部科学大臣 松本 洋平

文科省よりサキドリ研究校に指定されました。  
次のページでより詳しい内容が  
明記されています。



# 2. 文部科学省より② ※文部科学省教育課程柔軟化サキドリ研究校事業 公募要領資料より

## 教育課程柔軟化サキドリ研究校事業 概要

令和7年9月19日  
教育課程企画特別部会  
参考資料 2

### 趣旨

- 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂し、**一人一人の可能性を輝かせる柔軟な教育課程編成を促進**するため、中央教育審議会における次期学習指導要領に向けた検討において「**調整授業時数制度**」(※)の創設について検討中。全国の教育委員会や学校から、令和7年度から先行的に取り組んでいる研究開発学校と同様に、柔軟な教育課程の実施に取り組むたいとの声が多数寄せられている。  
(※) **各学校の判断により、各教科の標準授業時数を調整して教育課程を編成することを可能とし、生み出した時数を他教科等や「裁量的な時間」に充当可能とするもの。**
- 柔軟な教育課程を編成・実施する上では、より一層、**各学校におけるカリキュラム・マネジメントや教育委員会等による伴走支援・指導助言が重要**となり、これらの知見の蓄積が、制度導入後の教育課程の質に直結することとなる。

- 「調整授業時数制度」の導入後、各学校が創意工夫ある教育課程を円滑に編成・実施することができるよう、**全国各地の教育委員会・学校が教育課程の柔軟化の具体や手法についてある程度のイメージを持ち、知見を蓄積できるよう後押しをする仕組み（教育課程柔軟化サキドリ研究校事業）を創設。**

※本事業は、研究開発学校制度の下での教育課程の柔軟化の主な先行事例及び現行の授業時数特例校制度を念頭に置きつつ、「調整授業時数制度」の導入に先立って、まずは一定の範囲での教育課程柔軟化の試行事例を全国各地に生み出そうとするものである。実際の「調整授業時数制度」の制度設計は今後中央教育審議会において検討されるものであり、本事業とは同一の仕組みとはならない可能性があることを前提とする。

子供たち一人一人の可能性を輝かせる柔軟な教育課程を実施するための取り組みです。

### 事業概要

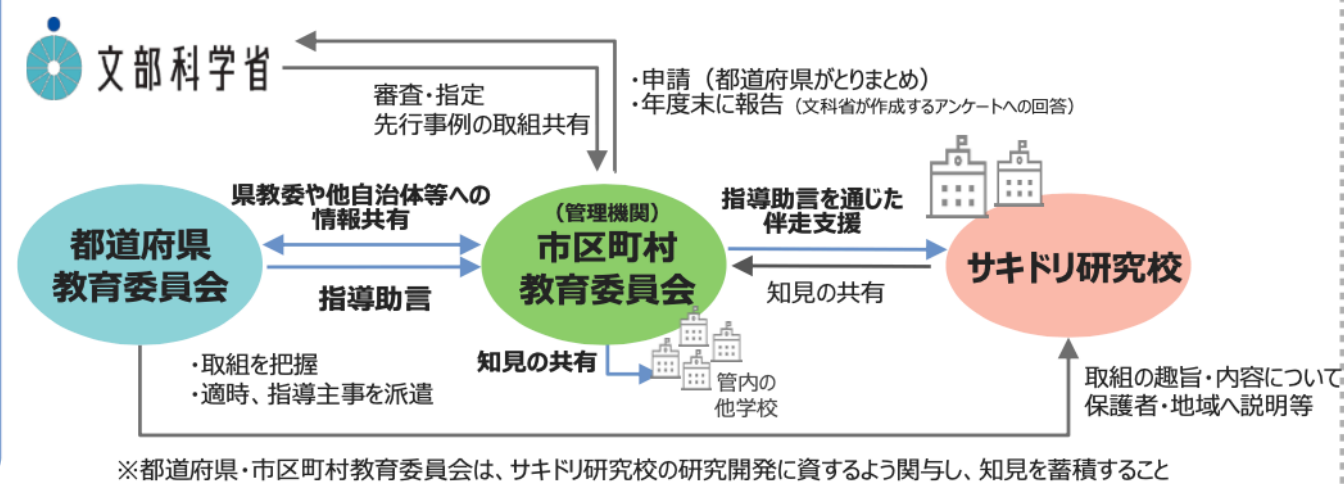
- 「調整授業時数制度」導入後の全国における円滑な制度実施に向け、研究開発学校とは別に、「**調整授業時数制度**」を先取りするような形で教育課程を編成・実施し、**研究開発を行うことができる学校（サキドリ研究校）を文部科学大臣が指定する。**

#### サキドリ研究校事業における教育課程の特例の内容

サキドリ研究校においては、先行事例を踏まえ、**調整授業時数は対象教科等(※1)ごとに10%程度を上限**とし、用途として以下に活用可能とする。その際、①～③にどのように活用するのかについては教育委員会、学校が子供や地域の状況を踏まえて判断することとする。

- ①既存の各教科等への上乗せ
- ②教科の新設
- ③裁量的な時間 (ア)子供の資質・能力の育成に特に資する教育活動 (※2)  
(イ)教師の組織的な研究・研修等

- ※1 年間35単位時間以下を標準としている教科等は、**対象外**
- ※2 標準授業時数が設定されていない学校行事や児童会・生徒会活動は含まれない
- ※3 ①②合わせて30コマ程度まで、③ (ア)と(イ)それぞれ30コマ程度まで



### 対象

- 全国の公立小中学校等
- ※ 義務教育学校、中等教育学校前期課程を含む。
  - ※ 各都道府県・指定都市につき5校程度を上限として指定。
  - ※ 各都道府県・指定都市における申請校には中学校を含むこととする。

### 指定期間

令和8年度から令和10年3月までの2年間を想定  
※「調整授業時数制度」の施行時期を踏まえて変更の可能性あり

### スケジュール

各学校における取組開始  
令和8年4月～



# 3. 8時25分から朝の会スタート！

8時20分までの登校とします。



令和8年度より 8時25分から朝の会を開始します。



(火・木) 8時30分 モジュール学習開始！

朝の時間の確認をお願いします。

ご家庭での朝の準備、いつもありがとうございます。ご家庭の協力があるからこそ、この教育課程が実現できます！

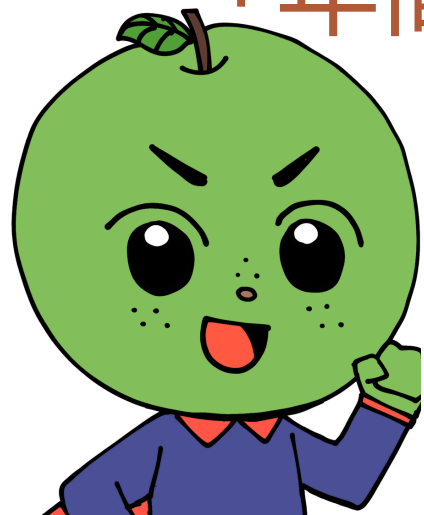


# 4. 中野島小独自の取組

これからの捉え方（本校の意図）

- 短い時間の使い方：15分モジュールで基礎を「ガッチリ」固める。
- 心のゆとり：早めの下校で、読書・習い事・家庭の時間を確保。
- 自立心の育成：生まれた「余白」の時間で、自分で考え行動する力を養う。
- 先生の時間確保：授業の準備、自己研鑽、児童理解のための時間。

正確な下校時間は「学校だより（月予定）」をご確認ください。  
「年間予定表」の一斉下校時刻もあわせてご覧ください。



最大の変化は「早く帰宅する日が増えること」です。「学習内容は大丈夫？」「早く帰って何をやるの？」と不安に思われるかもしれませんが、私たちの意図は単なる時間の短縮ではありません。生み出された時間を、子供たちが自主的に使う「学びの余白」として捉え直しました。

# 5. モジュール学習の充実

「モジュール学習」を充実させます。  
15分間の集中タイムを有効活用します。

火・木（8時30分～8時45分）

水（13時15分～13時30分）

週3回（原則）

15分 × 3回 = 45分（1時間分）

積み重ねで学力を定着させます。

水曜日はそのまま5時間目を60分授業にする場合もあります。

15分の短い時間で集中力を上げて、  
基礎基本の定着も！！  
学習のリズムもモジュール学習で作って  
いきます！



# 6. 新設！中小タイム

子供たちが主体的に学ぶことができるような時間です。  
年間5回程度を予定しています。

第1回：2～5年 国語スペシャル（国語の力を磨く時間）

1・6年 体力テストに挑戦！（多様な動きを高める運動）

第2回～第5回目：ワクワクする活動を計画中



**さまざまな教科で中小タイムを活用できるようにします。中小の子供たちにマッチした学びの時間にしていきます。**



変化を、成長のチャンスに。

